

反貧困ネットワーク 全国集会2025 2025年 4月12日

地域で生きるということ ～人の回復・再生からなるまちづくり～

一般社団法人 結YUI 代表理事 義平 真心

山谷という地域について

高度経済成長期に寄せ場（日雇労働市場）として発展

町名としての山谷は昭和41年に消滅
背景：暴動、貧困、アルコールのまち
としてのスティグマ

⇒ 対立・分断ではなく対話と融和を



いろは会アーケード（2017） 現在は撤去されている
老朽化した建物が取り壊され、マンションが建つ



ホテル明月

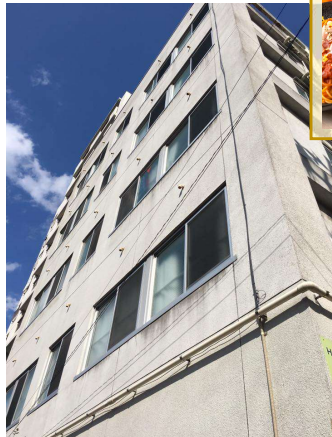


一般宿

ホテル寿陽



さんやカフェ



ありあけ

福祉宿



紫峰

一般社団法人結YUI

~山谷の多様性を活かした包容力のあるまちづくり~

2003年11月 任意団体 結 (YUI) 設立

- 幻の カフェ@いろは会 計画
- 簡易宿泊所の清掃員募集に野宿の人を紹介

2009年8月 ホテル明月運営委託

- 外国人をはじめとした旅行客の受入れ
- 元野宿の人を清掃員に

2010年9月 一般社団法人 結YUI

生活困窮者の
就労支援

2011年 東日本大震災

2013年6月 ホテル寿陽運営委託

- 外国人対象の運用形態を引き継ぐ

2014年6月 ありあけ開業 (直営)

- 生活保護の人を主な対象

2018年3月 さんやカフェ開業 (直営)

- 多様な人が集まる山谷の入り口
- さんやカフェ清掃隊

生活困窮者の
居住支援

2020年~ コロナ禍

2020年5月 ごはん配り 開始

2021年1月 巡回看護 開始

2022年3月 紫峰 開業 (直営)

コロナ禍で始めた野宿の人へ「ごはん配り」

緊急事態宣言下で仕事も食べ物もなくなった野宿の人たち

山谷に多くいる野宿者の意識

- できる限り自分で働いて食っていきたい
- なぜ元々野宿者のための炊き出しに生保（生活保護）の人間が並ぶのか
- 生保受けたら更生施設や無料低額宿泊所に行かされる
- 生保になったら働けない、働いたら損をするからなまけものになる



「苦境続く日雇い労働者 コロナ禍、都の事業2カ月中断」
日本経済新聞 2020/6/6

野宿の人に栄養あるごはんを届けよう！

- 1) 山谷と周辺地域で困窮している野宿者にごはんを届ける
 - ・一ヵ所に大人数が集まる炊出しと違って新型コロナウイルスのクラスター感染の可能性が低い
- 2) 新型コロナウイルスの感染予防のためにも栄養のある美味しいごはんを届ける
 - ・野菜を中心に様々な具材を使った栄養価の高い食事を届ける
- 3) ごはん配りで状況を確認し、翌日に巡回看護を行うことでより効果的、包括的に次の段階の支援に繋げる
 - ・継続的に活動を行っていることで野宿者の個別の状況や体調の変化を知る

巡回看護の目的と背景

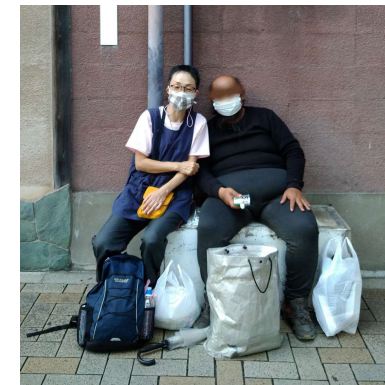
背景 1

- 健康保険証を持つ人は少なく支払えないため容体が悪くなり救急搬送となるまで待つ人が多い
- **更生施設や無料低額宿泊所を避ける**ため、生活保護を拒否して退院後は野宿に戻る人が多い

背景 2 ※ごはん配りをするようになって分かったこと

- 自らも（元）野宿の人で仲間の健康状態を思いやり、相談にくる人たち
- 重度と見られるが既存の支援に結びつかない、または結びついても一時的な治療のみで根本的解決とはならず、野宿の継続となっている現状
- 何らかの症状があっても自ら支援を求めて声をあげる人は限られている

野宿者の内面 自己卑下やセルフネグレクトの状態
支援者を含めた『外集団』に対する**不信感**



継続的な治療につなげるため、こちらから訪問して健康状態を聞いてみよう？

巡回看護の特徴

1. **傾聴**がカギ（相手を否定しない、信頼関係を築き固有の事情を聴きだす）
2. 医療器具は 携帯型アネロイド血圧計、聴診器、五感と観察力



2024年度の巡回看護の概要 (ファイザープログラム助成3年目)

2021年1月から巡回看護を始め 延べ42名を医療機関に繋げ、現在も22名を結YUIの運営する宿泊所に受け入れている
野宿継続中の2名は現在も巡回看護の対象（3名死去、2名療養施設、1名他宿泊施設、3名アパート、3名帰郷、3名失踪）

- ・ 野宿生活20年、心疾患だが公園で寝る方が緊急時でも皆に見守られているから野宿がいいと言っていた人
- ・ 難聴な上白内障が進行し両目見えなくなって身の危険を感じて野宿生活を諦めた人
- ・ 障がいがあって金銭管理が難しく野宿と生活保護受給を繰り返していた人 等

結YUIの宿泊所に滞在する人の声の例

Tさん 「路上に寝ていた頃に比べてここでの生活は天国だ！」
「皆さんに感謝している」

Kさん 「言われた時に早く（病院に）一緒に行っておけばよかった」
「でも右目は見えるようになって本当によかった、助かった」

Hさん 「こんなにやってくれる人がいるとは思わなかった」
「早く退院して〇〇に帰りたい」

多くの人が以前は野宿生活だったとは分からないくらい回復



回復後にもらったお礼の品々

Hさん 70代 男性

野宿→入院→結YUI宿泊所 →地域サービスへ

地域のサービス

- ・公園、路上で生活
- ・空き缶集めで収入
- ・2022年末から体調を崩す
- ★2023年1月動けなくなる
- ・皮膚が虫に刺され爛れる
- ・浮腫が見られる
- ・血圧が高め・意識やや朦朧
- ★救急搬送
- ・都内の病院で急性敗血症と診断され治療を受ける
- ・全身状態改善し、リハビリ目的で転院、4カ月入院

結YUIの関わり

路上

散髪・フットケア・衣類・食べ物提供・傾聴
★救急車要請
救急隊との連絡

入院中

病院との連携
退院前カンファレンス開催要請
退院時お迎え

結YUI宿泊所

福祉事務所同行
診療、訪問看護との連携

- ①訪問診療（月2回）
→褥瘡処置・薬処方
- ②訪問看護（週3回→1回）
→褥瘡処置・リハビリ
（当初）シャワー浴介助
- ③訪問歯科→義歯作成
- ④配食サービス（週3回→2回）
- ⑤訪問介護（要介護3→1）
→現在 週1回 入浴介助



フットケア



褥瘡完治



野宿生活 から 地域生活へ

野宿者の巡回看護



フットケア



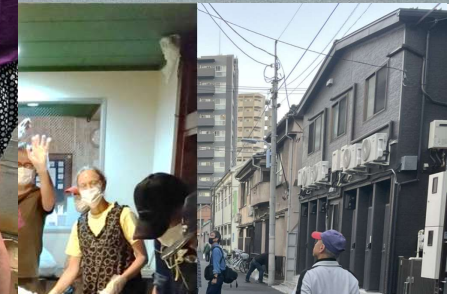
爪ケア



生活保護受給者のエンパワメント

就労、地域清掃・ごはん配りの参加
アートイベントへの参加
2023年から…屋上緑化・お食事会（健康管理）

まちづくりの1プレーヤーとなり、
地域の住民となる地域生活移行支援



コロナ禍における生活保護受給者の受入れ状況

2020年4月の緊急事態宣言発令から2023年3月末まで、コロナ禍で生活保護となった方を法人の運営する宿泊所で**計153名**受け入れた（台東区、荒川区、豊島区、渋谷区、練馬区、文京区、葛飾区、墨田区、中野区、千代田区より）

※ その内2割弱は他支援団体が運営するシェルターや都営アパートへの転宅が決まる

※ また1割は失踪を主とした自主退去

20代 14

30代 14

40代 35

50代 30

60代 32

70代 22

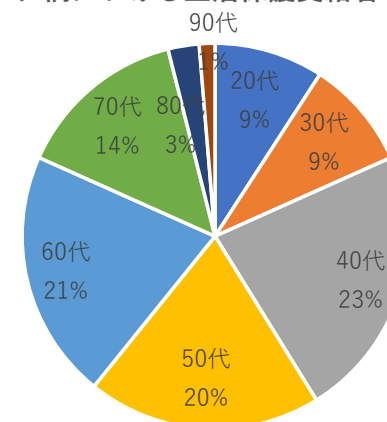
80代 4

90代 2

計153名

20代～40代の若年層、壮年層が増加

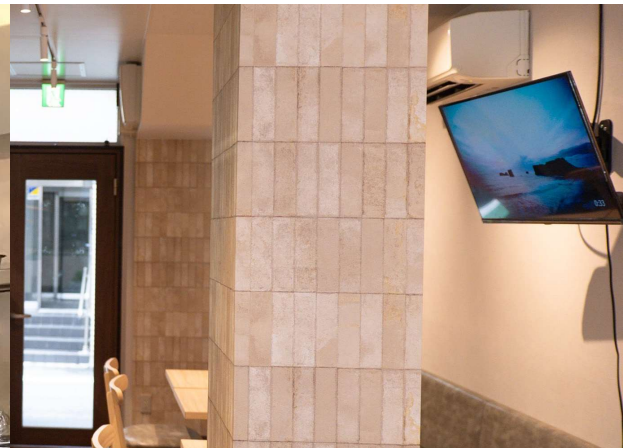
コロナ禍における生活保護受給者 年代別



失踪の要因: 1) 保護費を得た時、 2) 金銭を使い込んでしまった時、 3) 利用者間のトラブル

※ アルコールや薬物、ギャンブル等の使用障害（依存症）やその他精神的な症状が背景に





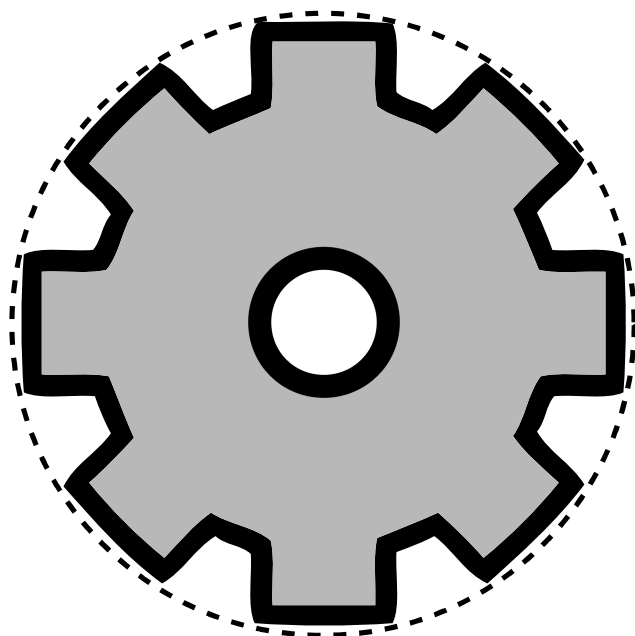
KBSの取材風景

支援受けた側から支援する側に回る事で少しでも多くのバトンを繋げて行きたいのと、さんやカフェを拠点として普段ボランティアとか支援のことに関心がなかった人、興味あるけど参加できなかった人との橋渡しの存在になりたいと思っています。

山谷の入り口としても、地域に根差したコミュニティカフェとしても両方の役割を果たしたい、自分の作ったご飯で誰かの希望となれたら嬉しいです。

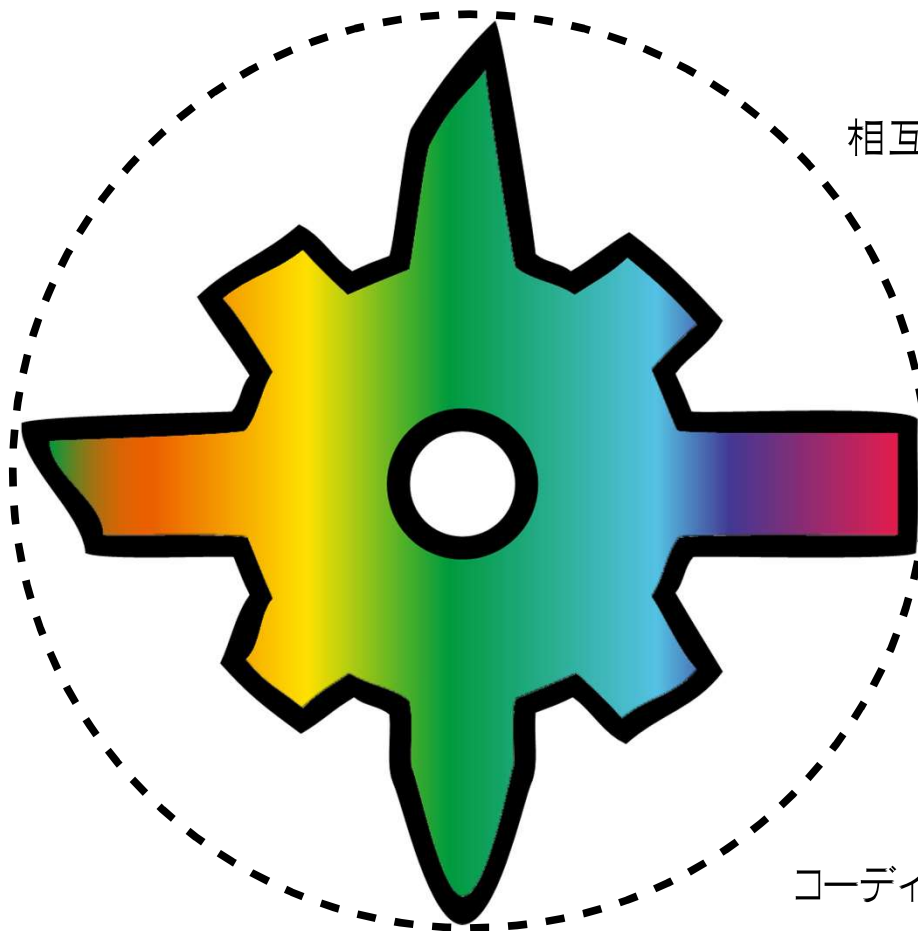
ありがとうと言われることが嬉しい。今まで言われることがなかった。ここが人生のターニングポイントだと思った。今まで根無し草だったもので、根を張らせてください、とお願いした。

自分としては居場所があることが大事、これを失くしたら自分の人生が終わるんだ、と思うくらいの場所があれば一番いい。居場所兼癒し。居場所が癒しになることがある。仕事していて癒しにもなる。



權威主義的

均一性



相互理解

コーディネーター

多様性

山谷に善意の訪問者を増やす



HP: <https://sanya-yui.net>

